

「危ない宝石？シリーズ」の第二弾「取り扱い要注意！の宝石たち」。

馬 万強 (Ma Wanqiang)

私は今年6月英国宝石協会 FGA ディプロマコースを修了し、試験合格の上、ロンドンで授与式に参加してきました。修了式で伊藤理事長にお会いできて、勉強会と会員のことをお勧めくださり、今回の勉強会に参加してきました。

今回、アンブローズ代表の堀内信之社長と2人の社員の方が講義及び体験指導を行いました。堀内社長は JGS の副理事長で広報室部長も勤めていまして、丹精をこめてこの勉強会に望んでいました。私は初めて参加ということで、入室したら、黄緑の宝石と地金リングがテーブルにいっぱい置いてありました。私たちは普段、宝石のルースやジュエリーなどに携わっていますが、大体完成品のみを触っています。加工の体験はありません。この後で自分たちは自ら実際作業できると考えると、どきどきでうれしかったです。さらに、堀内副理事長から今日はもちろんみんなに実際手を使って、石留めの作業をしますが、単純に爪に嵌めるだけではなく、固定作業本来の限界を超えて、石を一回割ってみてどんな感じか体験しようとして説明してくださいました。その理由として、石留めが一番大事な作業で、しっかり嵌めないで宝石が容易に取れてしまうことになる。分からないうちに落としたり、見つけようもありません。と言っても、限界以上嵌めると、宝石は割れたり、欠けたり、商品になりませんし大変な損失を伴います。そのぎりぎりのところは作業者に求められていることです。製作の大変さと大事さの理解はもちろん、加工業者ではない方でもこのジュエリー業界でお客様と接することですので、いかにプロセスとリスクを理解の上で心をこめて丁寧に説明できるかを求められているわけです。本日指導して下さったのはアンブローズ社社員の2人で野口さんと後藤さんでした、二人とも貴金属装身具技能士1級資格を持っている方です。その後、2グループに分けて、PT950と18Kピンクゴールドの地金リングに宝石を嵌めました。受講者の皆さんは一人ずつ漏れなく、楽しい雰囲気でも真剣に作業しました。実際やってみると、爪が簡単に曲がらないとか、曲がっても斜めになっているとか、さまざまのハプニングが発生、これら問題をクリアしながら作業しました。さらにみなさんは本気で嵌めて、固定できる限界を超えて、真剣に一回宝石を割ってみました、ルーペで割れ方や形などを見たら、みんな驚きながら、感心しました。この作業を通じて石留めをどこまでやらないといけないか、どこまで越えてはいけないか、自ら行い、今まで勉強してきた知識と理論を実証できました。とてもすばらしい有意義な体験でした。

セッティング体験は他のところでできるかもしれませんが、実際一回割ってみるのはなかなか体験できる場所がありません。ここまで提供して下さった堀内副理事長にとっても感謝します。また、受講の会員たちと、短い時間でありながら少しは交流できたと思います。今後も勉強会に参加し、知識を積みあげながら、会員たちと交流を深めていきたいと思っています。